

The 41st Annual International Human Science Research Conference (IHSRC)

on June 9-13, 2024

活動報告（太齋慧）

【日時】2024年6月11日（火）10:15～10:40

【場所】Molloy University Rockville Centre, NY, USA

【発表種別】口頭発表

【発表題目】How heterosexual psychological supporters position themselves with homosexuals
(異性愛者である心理支援者は同性愛者に対し自己をどのように位置づけるか)

【発表内容概要】

同性愛者のメンタルヘルスの問題は抑うつ、不安、自殺企図等様々な指標において指摘されている (Piöderl & Tremblay, 2015)。その背景に、同性愛者を貶める見方、態度、社会構造としてのスティグマがある (Meyer, 2008)。同性愛当事者は社会からの否定的な視点を内在化してセルフスティグマを抱きがちであり、それが肯定的な自己概念ひいてはメンタルヘルスを阻害する (Newcomb & Mustanski, 2010)。心理支援においては支援者がスティグマを認識することの重要性が謳われている (APA, 2021) が、心理支援過程においては意図がなくとも軽視や侮蔑を伝えてしまうマイクロアグレッションが生じることがあり、同性愛者の自己概念や支援関係を害することが指摘されている (Sue, 2010)。以上より本研究では、異性愛者である心理支援者がどのように同性愛者や同性愛者に対する支援を捉え、同性愛・異性愛という差異に対して自己をどのように位置付けるかを明らかにし、支援関係を促進するあるいは阻害する関わりが生じる条件について検討することを目的とする。

異性愛者である心理支援者 11 名を対象とし、同性愛者や同性愛者への支援のイメージについて半構造化インタビューを行った。分析の観点としてポジショニング理論 (Harré & van Langenhove, 1999) を用い、異性愛者に対して自己をどのような存在として位置付けるかという観点からカテゴリ分析を行った。

その結果、支援者が同性愛者に対する自己のポジションを広げる過程が見出された。ポジショニングにおいては差異への意識の大きさという認知の軸、差異へ近づくか距離を取るかという関係性の軸が見出され、それらの軸が構成する四象限を代表するポジションとして【やりにくさ】【個人としてみる】【同性愛者の特有の経験への意識】【同性愛者の特有の経験への共感】が見出され、同性愛者への支援におけるやりにくさに対処しポジションを移行することを示すカテゴリが見出された。それぞれのポジションについて肯定的機能、およびマイクロアグレッションにつながるような否定的機能が考察された。支援者はこれらのポジションの機能に気づき、複数のポジションを活用していくことが有用であると考えられた。

【ディスカッション概要】

フロアからの質問を受け、年長者の方が時代背景的に同性愛への違和感を抱きがちだろうという直感に反し、臨床歴が浅い若年者の方が同性愛支援にやりにくさを抱く語りが多かった点について議論した。他国の参加者から、臨床歴の浅い時期には同性愛者への支援において理論や知識に頼りたくなり本人の経験に寄り添うことがおろそかになりがちだったという体験がシェアされ、改めて考察が重要になる点であると感じられた。